

箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区の風景

資料 1-3



箕面勝尾寺鳥獣保護区特別保護地区内に生息する 野生鳥獣の生態



サンショウクイ



ニホンリス



サシバ



ノウサギ

タカ渡り 箕面は猛禽類の渡りのルート途中に位置しているため、春と秋に上空を通過する猛禽類が見られます。特に秋は個体数が多く、サシバ、ハチクマを中心にノスリも混じって見られます。9月後半の天気がよく、弱い北東の風が吹いて上昇気流ができる日には、「鷹柱」ができて、たくさんの猛禽類を観察できることがあります。



ハチクマ

サシバ

ノスリ

箕面ビジターセンターだより

2022年
7月・8月
9月号

季刊 箕面ビジターセンターだより NPO法人みのお山麓保全委員会・大阪府 発行



鳥たちの夏 箕面国定公園の森の中はコンクリートで囲まれた街なかと比べると真夏でも気温が低く、過ごしやすいです。川の水が流れる音も涼を感じさせてくれます。川辺では鳥たちも水浴びをしています。鳥の水浴びは、体温を下げるためではなく、体を清潔に保つための行動なので夏以外の季節にも見られます。



オオルリ キビタキ サンコウチョウ センダイムシクイ



カワラヒワ メジロ キセキレイ カワガラス



シジュウカラ ヒガラ ホオジロ ヒヨドリ

箕面ビジターセンターだより

～明治の森箕面国定公園の自然と生き物～

春の特集号
(4月・5月・6月号)

明治の森箕面国定公園は四季折々に多様な生物がみられます。このパンフレットは国定公園に生息する生き物たちと、彼らの暮らしを紹介しています。

春の森でさえずる鳥たち

木々が芽吹き、虫たちの活動が始まると、春から夏にかけて箕面の森で子育てをする鳥たちがパートナーを見つけるために美しく、力強くさえずります。森の中はとても賑やかになります。



ウグイス ホオジロ キビタキ オオルリ センダイムシクイ



サンコウチョウ イカル メジロ ヤマガラ シジュウカラ

オスからメスへ虫を「プレゼント」する求愛給餌行動がみられます。 ヤマガラ(左)とオオルリ(右)



つがいが出来ると、ペアで協力して子育てをします。交代で卵を抱いたり、食べものを運んだりします。ヒナが大きくなり、巣から離れても、自力で食べものをとることができるようになるまで続きます。



メジロ コゲラ カワラヒワ キセキレイ

箕面ビジターセンターだより

2022年
1月・2月
3月号

季刊 箕面ビジターセンターだより NPO法人みのお山麓保全委員会・大阪府 発行

冬に見られる鳥 落葉樹の葉がないこの時期は、梢を飛び交う鳥たちを観察しやすくなります。冬場は、シジュウカラやエナガ、ヤマガラなどのカラ類やメジロ、コゲラなどの小鳥たちは、複数の異なる種類で一つの群れを作る「混群」もよく見られます。にぎやかな鳴き声と共に近づいてきて、やがて同じ方向に移動していきます。他種でも一緒に行動することで、捕食者から身を守ったり、食べ物を探すのに有利になるようです。 ※ は混群でよく見られる鳥

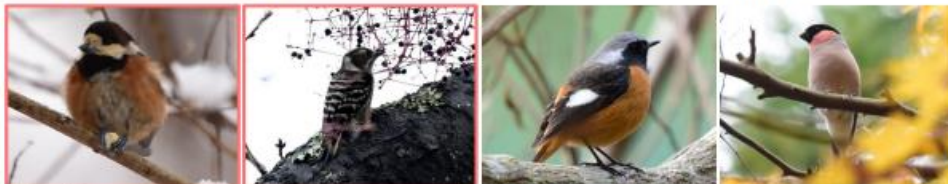


シジュウカラ

エナガ

メジロ

ルリビタキ



ヤマガラ

コゲラ

ジョウビタキ

ウソ



シメ

イカル

アトリ

アオジ

サギの仲間 水辺ではサギの仲間が見られます。魚やカニなどを探して暮らしています。ダイサギやコサギは、全身の羽毛が真っ白で、まとめて「シラサギ」と言われることもあります。ゴイサギは、夜行性のサギで夕方頃から活動を始めます。



ダイサギ

コサギ

アオサギ

ゴイサギ

雪化粧の森ハイキング 寒い日でも冬の澄んだ空気の中をハイキングすれば体も温まります。この季節しか出会えない美しい自然に出会うことができます。



雪が積もった箕面山

オヶ原林道の雪景色

動物たちの冬 寒い冬を乗り切るために動物たちも食べ物を探して動き回っています。小枝に残った木の实や冬芽、樹皮などを食べて春の訪れを待ちます。雪がうっすら積もったときには彼らの足跡が残っていることがあります。



ニホンジカ

タヌキ

ニホンザル

ニホンリス



「箕面の山パトロール隊大掃除大作戦」の様子